



TOP Corporation

Corporate Guidance

The TOP in Quality

株式会社トップ





創業当初のガラス注射筒。
私たちの原点であり、現在も変わらない想いが詰まっています。

希望を創り、 未来を生み出すために

1940年——1本のガラス注射筒から、
“その先”へ向かう挑戦は始まった

「医療現場の声をカタチにする商品づくりを」

「医療従事者にやさしく、患者様にもやさしい最高品質の商品づくりを」

医療機器メーカーのパイオニアとして、

「よりよい商品を創造して、人々の健康と福祉に貢献する」ために、

私たちトップの挑戦が始まったのは、1940年のことです。

メーカーとしての第一歩は、ガラス注射筒でした。

やがて、私たちは熟練した職人の手作業でしか生産できなかったガラス注射筒の
オートメーション化に成功し、一躍医療業界の知るところとなりました。

これは、1000分の1mm単位の精度をもつ最高品質へのこだわり、

培ってきた技術力、さらに熱い想いが結びつくことで成された製品です。

また、今日にいたる総合医療機器メーカーとしての道筋を切り開ききっかけにもなりました。

私たちが1本1本のガラス注射筒に込めた想いは、

現在、さまざまな分野の医療機器に継承されています。

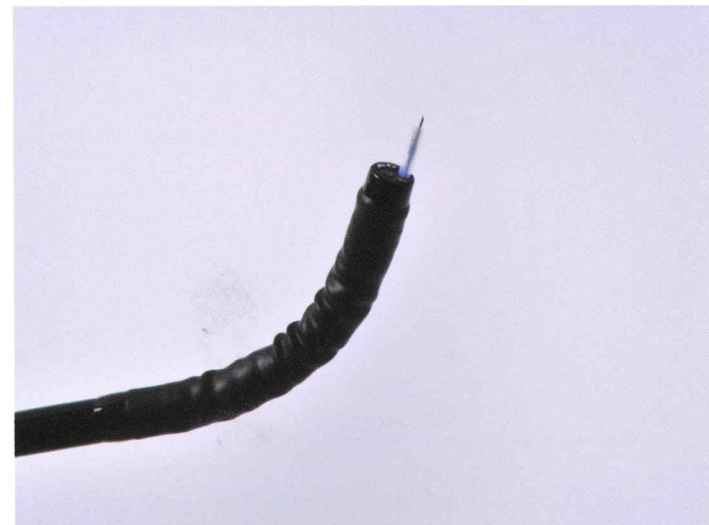
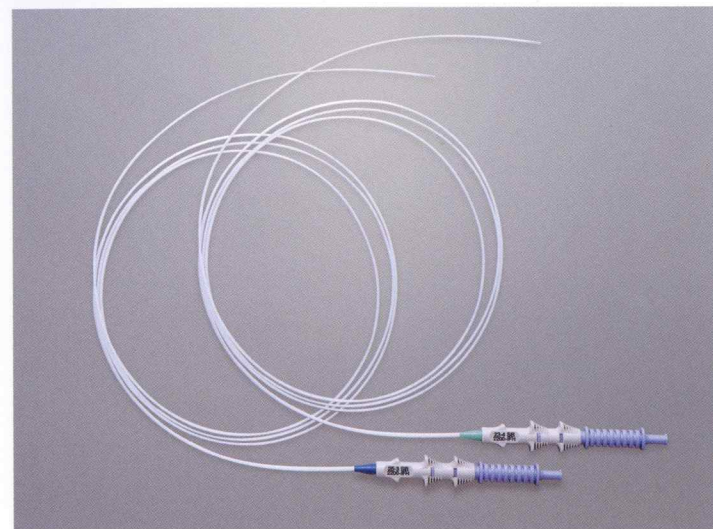
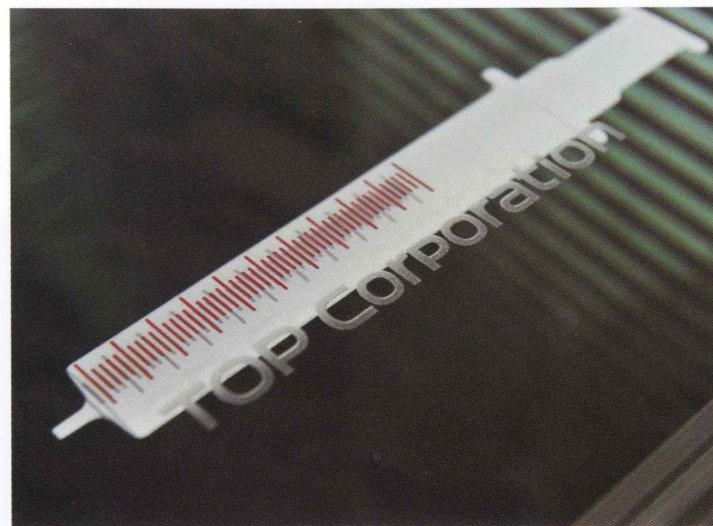
社名のとおり、総合医療機器メーカーのトップ・ブランドであり続けるべく、

人々の生命と健康に携わることを誇りに、私たちは歩みを止めません。

The TOP in Quality

人々の希望を創るために、「真にやさしい医療」という未来を生み出すために、

私たちは、これからも着実に、最高品質を追求し続けます。



現在——医療現場の声を カタチにし続け、 安全性と利便性の向上を支える

「高精度で均一な品質の注射筒を医療現場に届けたい」

「より多くの医療従事者に届けたい」

かつて私たちはこのような想いを抱き、年月をかけて培ってきた技術開発力をもとに、ガラス注射筒の生産におけるオートメーション化を実現し、医療現場に飛躍的な進歩をもたらしました。

私たちが製品づくりにおいて大切にしているのは、「想いを実現すること」です。

すべては、医療現場の「声」や「想い」に耳をかたむけ、

ニーズをカタチにすることから始まります。



たとえば、『プレフィル®シリンジ』。

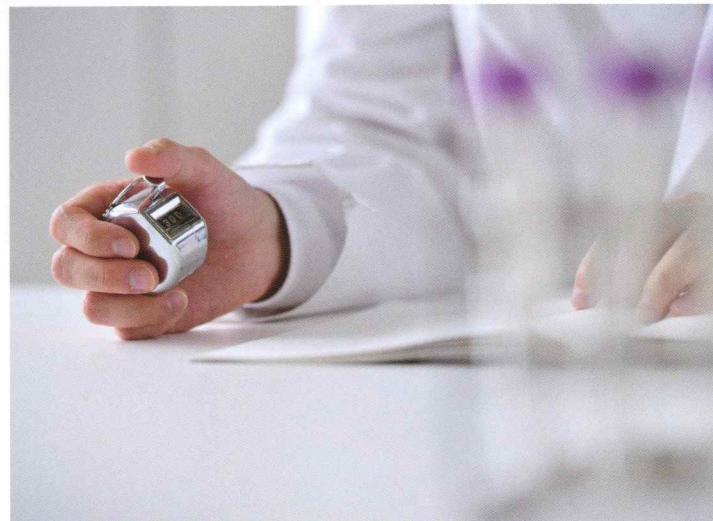
安全性と利便性を求める医療現場の声に応え、

私たちがいち早く製品化に成功しました。

また、『トップ内視鏡用穿刺針』は、第一線で活躍する医師と連携して作りあげた、まさに医療現場の「声」を具現化した製品です。

このように私たちは、医療現場にしっかりと寄り添う姿勢から、新たな製品の創出と安定した製品供給を実現してきました。

この積み重ねが、「人々の健康と福祉に貢献する」という理念を体現しています。



グローバルな視野 — 国内外の製品要求に応え、 品質向上に努める

高品質で安心・安全な製品をいつまでもつくり続けていくための、品質保証における取り組みをご紹介します。

- ◎市場や自社内からの製品に関する品質情報の収集・分析
- ◎各種試験による安全性の検証・評価
- ◎品質システム改善の推進支援

また、品質システムについては国内だけではなく、海外でも通用する体系を構築するため、医療機器の品質に関する国際規格ISO13485医療機器-品質マネジメントシステムを適用しています。一貫した品質方針のもと、本社をはじめ国内外の各生産拠点で品質マネジメントシステムを構築していることから、包括的に機能しています。

医療用電気電子機器の安全性に対する国際規格に、いち早く対応

ME(Medical Electronics / 医療用電気電子機器)製品においては、電磁波による誤作動を防止するため、1995年に電磁適合性の国際規格である「EMC規格」にいち早く適合しました。また、ソフトウェアの安全性に対して製品の開発プロセスを規定し、それに基づくことでソフトウェアの安全性を保証する「ソフトウェアライフサイクルプロセス規格」や、製品の誤操作を未然に防ぎ、使用品質を高める「ユーザビリティエンジニアリング規格」への対応を完了しています。さらに、人体および環境に配慮したME製品の提供を目指すため、欧州におけるRoHS指令(特定有害物質使用制限指令)に基づいた開発にも取り組んでいます。

私たちは、患者様や医療従事者のみなさまに対する安全性を常に考え、良質な医療機器を提供するため、日々努力を続けています。



品質保証と 安全対策について

Quality control
&
Safety measures





医療現場に寄り添う活動—— 「声」と「想い」をくみ取るために

トップの営業は、徹底したセールスにこだわりながらも常に医療現場に寄り添い、医療従事者とコミュニケーションを図り、医療現場に内在している「声」や「想い」を誠実に聞き取っています。医師とのタイアップにおいても、営業のフットワークは活かされており、迅速な開発による製品化を促進し、医療現場へのスピーディーな提供を可能としています。充足されていない強いニーズに応える、これがトップの営業です。



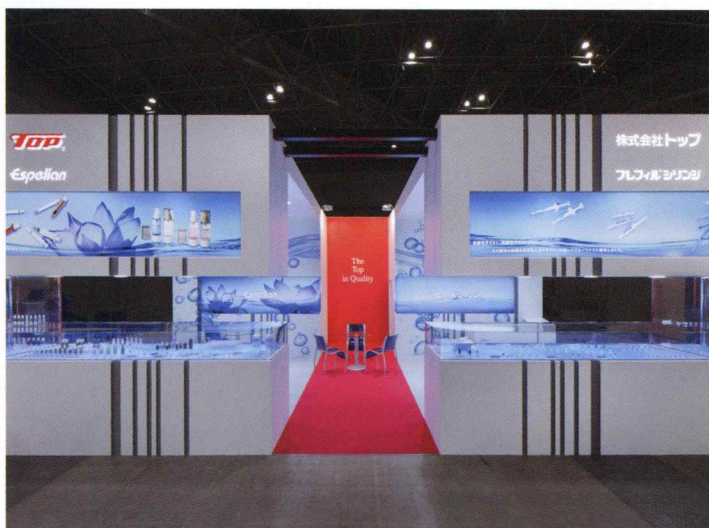
医療現場への的確な情報発信も重要な役割です。たとえば、各地で行われている学会や展示会に参加し、新製品をはじめ、自社製品のPR活動を行い、また、製品開発において協力を得ている医師によるブースレクチャーやランチョンセミナーを通じ、医療情報の周知活動に努めています。

医薬品・化粧品・動物専用領域、海外市場にも広がる活動の舞台

一方では、医薬品業界向けの製品として『プレフィル®シリンジ』を国内では先駆けて開発し、その経験と実績をベースに、お客様のニーズと自社のシーズをマッチさせた製品を提案しています。このほか、化粧品や動物専用領域をはじめ、広範な分野に対して活動の場を広げています。

さらに、私たちは海外に向けても製品を展開しており、営業の範囲はアメリカ、ヨーロッパはもとより、中南米、東南アジア、中近東、アフリカにまで及んでいます。また、UAEのドバイで行われる医療機器展示会に2002年から、ドイツ・デュッセルドルフで毎年開催される世界最大の医療機器展示会である『MEDICA』には1996年より継続して参画し、自社の高いクオリティを各国に発信しています。

高品質な製品に国境はありません。私たちは、今日も「声」と「想い」を具現化することで、グローバルに貢献する製品を供給し続けています。



トップの営業とは？

Sales & Marketing



安心・安全な新製品をつくる— 医師のニーズを、 プロジェクトチームで具現化

「患者様にも、医療従事者の方々にも安心・安全な製品を提供していきたい」

このような志を抱きながら、トップの開発者たちは医療機器の開発に取り組んでいます。医療機器の開発を行う上でのファーストステップは、営業部門から汲み上げられた市場でのニーズやタイアップしている医師の意見を踏まえ、さまざまなインプット情報を取り入れることです。そして、これらの情報を高次元で具現化させるために、製品分野ごとに各部門から選抜されたメンバーによりプロジェクトチームを結成することで、機動的な開発体制を敷いています。

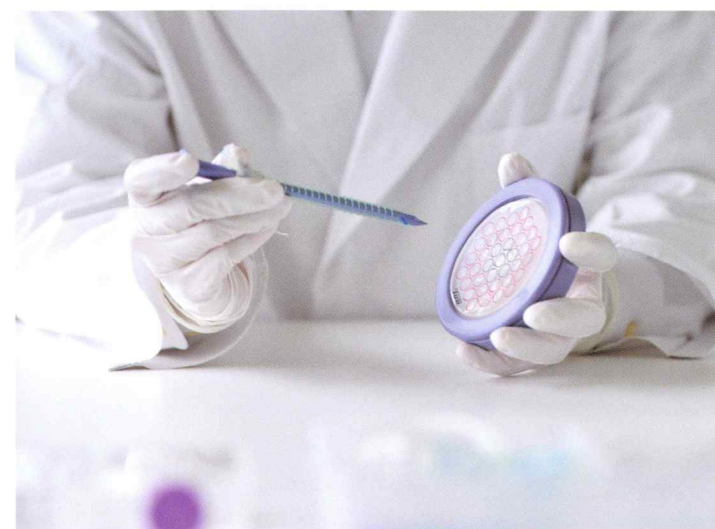
その中でも、主担当となる開発者は、「どのような形状・機構にしていけば医療現場で喜ばれるか」を考え、まだ市場にない新規性のあるカタチにしていくことを意識し、基本構想の設計を行います。「生みの苦しみ」——開発者がおおいに試行錯誤するのはこの時間といえますが、「今よりもさらにより医療機器をつくりたい」という揺るぎない想いが、新たな製品の着想をもたらすのです。

私たちは医療機器設計開発のエンジニアという誇りを胸に、医療現場の声を具現化していくことで、今後も広範な分野にわたって次世代の解決策を発信していきます。



トップの開発とは？

Development



トップの生産とは？

Production



最高品質を安定供給する —— 金型から一貫して自社生産する体制

私たちが、高品質な製品を安定供給できる要因は、独自の「自社一貫生産体制」にあります。製品の金型作成から成形、加工、組立、包装、滅菌、出荷にいたるすべての工程を自社工場で一貫して行っています。

この生産体制が整っているからこそ、製品の改善や仕様変更などへの敏速な対応が可能となっています。また、国内に5ヶ所、海外に3ヶ所の生産拠点を有し、全国への流通においては各地の重要都市に物流センターを設置することで、製品安定供給体制を確立しています。



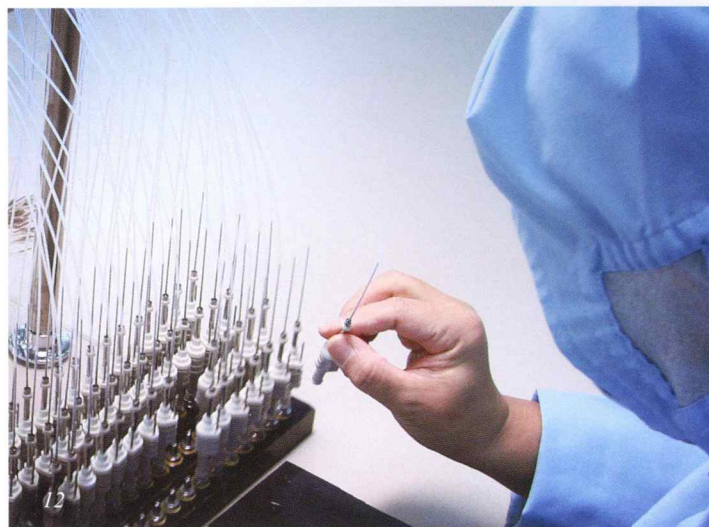
台湾特浦股份有限公司
TOP SURGICAL [Taiwan] CORPORATION



メディトップコーポレーション第1工場
(マレーシア)
MEDITOP CORPORATION (M) SDN. BHD. Plant-1



メディトップコーポレーション第2工場
(マレーシア)
MEDITOP CORPORATION (M) SDN. BHD. Plant-2



人体への影響を軽微に —— 耐薬品性をふまえた、素材研究

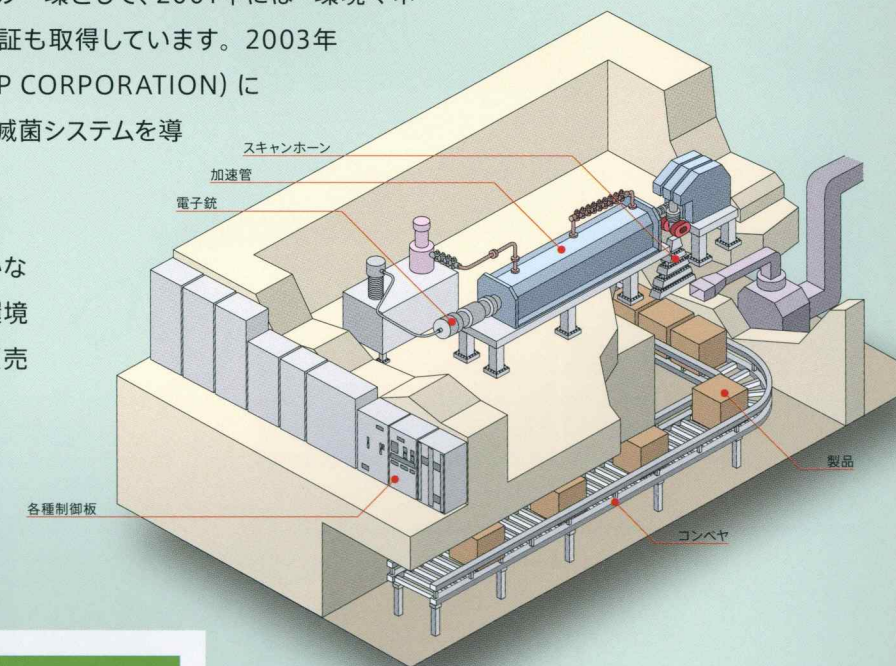
現在、多岐にわたる医療機器に「ポリ塩化ビニル製品」が広く使用されています。同製品の添加成分の1つであるDEHP(可塑剤)は、行政機関などでは環境ホルモンとして人体へのリスクが懸念されていますが、私たちはいち早くこの問題に取り組み、代替材料を用いた製品開発に成功しました。

製品に使用する素材の研究は、私たちの大きなテーマです。プラスチック・ガラス・金属・ラテックスをはじめとする素材の特性は、製品開発において安全性と有効性に大きな役割を占めるからです。加えて、今日の医療現場では、新薬の発達によって、従来の医療機器で使用された素材よりもハイレベルな耐薬品性素材への要望が高まっています。この耐薬品性の素材へ対応するため、技術者たちは粘り強く研究を重ね、さまざまな薬剤と相性のよい素材を用いた医療機器の製品化を目指して、素材研究に日々取り組んでいます。

人も地球も守る、環境保全の取り組み

人の生命と健康を守る医療機器が、地球環境に悪影響をおよぼすものであってはなりません。安心・安全・高品質な医療機器を提供することは、環境に対しても貢献することです。私たちはそう考え、環境保全に全社を挙げて取り組んでいます。その一環として、2001年には「環境マネジメントシステムISO14001」の認証も取得しています。2003年には、マレーシア工場(MEDITOP CORPORATION)において最新技術を駆使した電子線滅菌システムを導入しました。

子どもたちも安心して暮らせる豊かな地球を残すため、私たちは今後も環境に配慮した製品の開発・製造・販売を行っていきます。



環境保全というテーマ Environmental conservation

【電子線滅菌システムとは】

放射性廃棄物などを出さない、
環境に配慮した総合滅菌システム

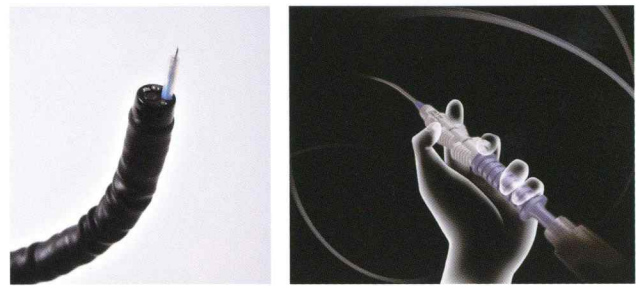
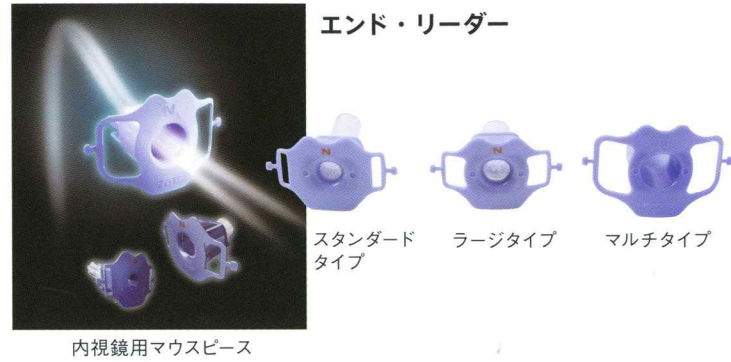
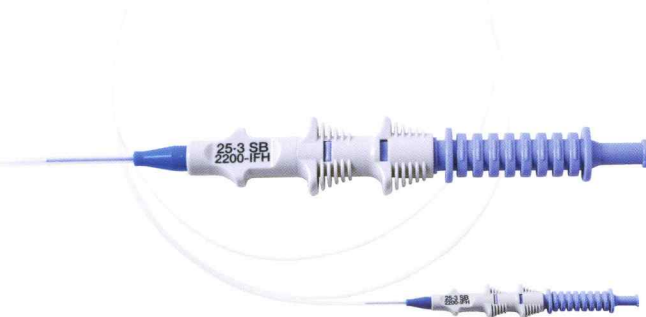
電子線滅菌は、製品を最終形態の梱包状態のまま滅菌できるシステムです。数秒から数十秒という短時間で、大量の製品から少量の製品まで連続的に効率よく滅菌ができます。電子線滅菌は、従来行われてきたガンマ線滅菌などの滅菌方法と比べ、放射性廃棄物などによる有害物質の排出、廃棄物処理の問題がなく、環境および作業員にもやさしくスピーディーで確実な滅菌方法です。私たちは環境保全においても先端を走る取り組みを進めています。

低侵襲治療製品

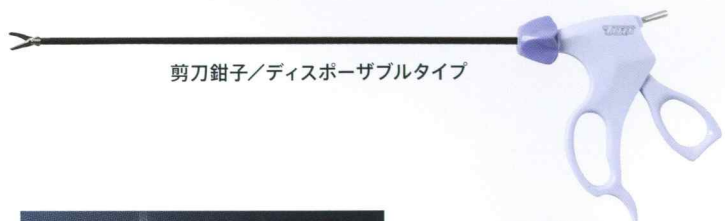
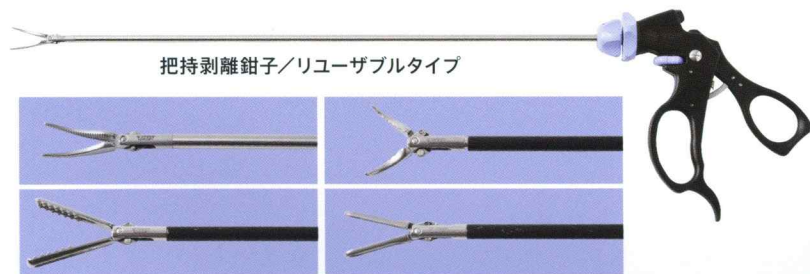
患者様への身体的負担を減らす低侵襲治療をサポート

●内視鏡関連製品

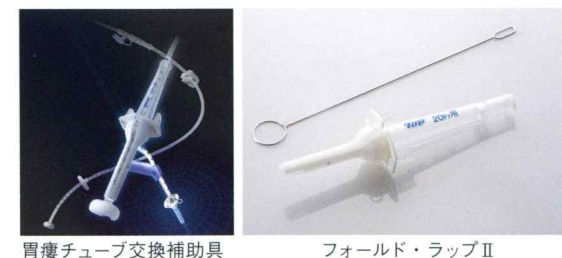
トップ内視鏡用穿刺針/スーパーグリップタイプ



●ラパロ(腹腔鏡)手術関連製品



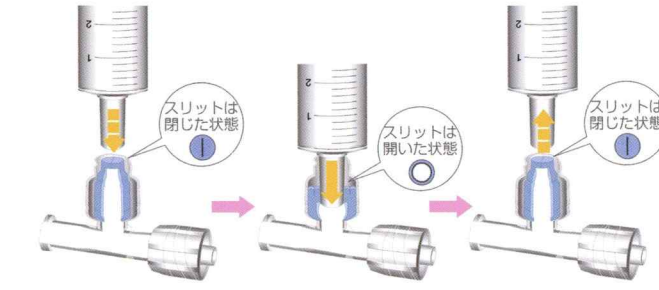
●胃瘻造設関連製品



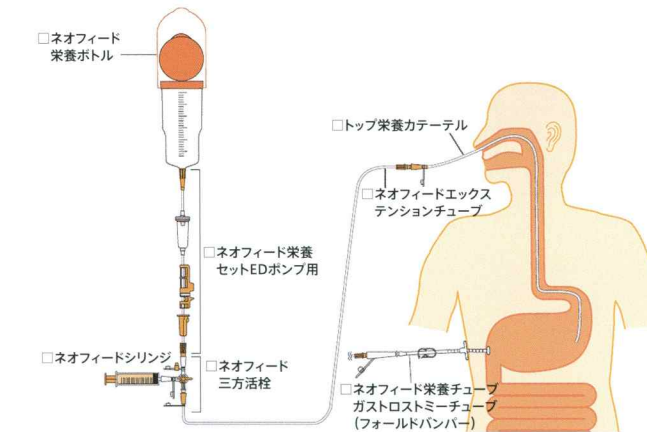
安全対策製品

誤接続させない、誤刺しない

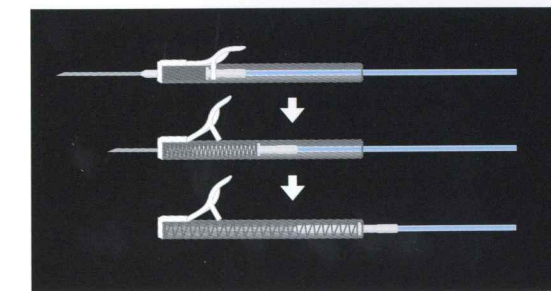
●セフィオフローシステム
(閉鎖式輸液システムによる感染防止対策)



●ネオフィード経腸栄養システム(誤接続防止安全対策)



●ファインガードシステム(針の誤刺防止対策)



人体への影響を考え、素材から取り組む

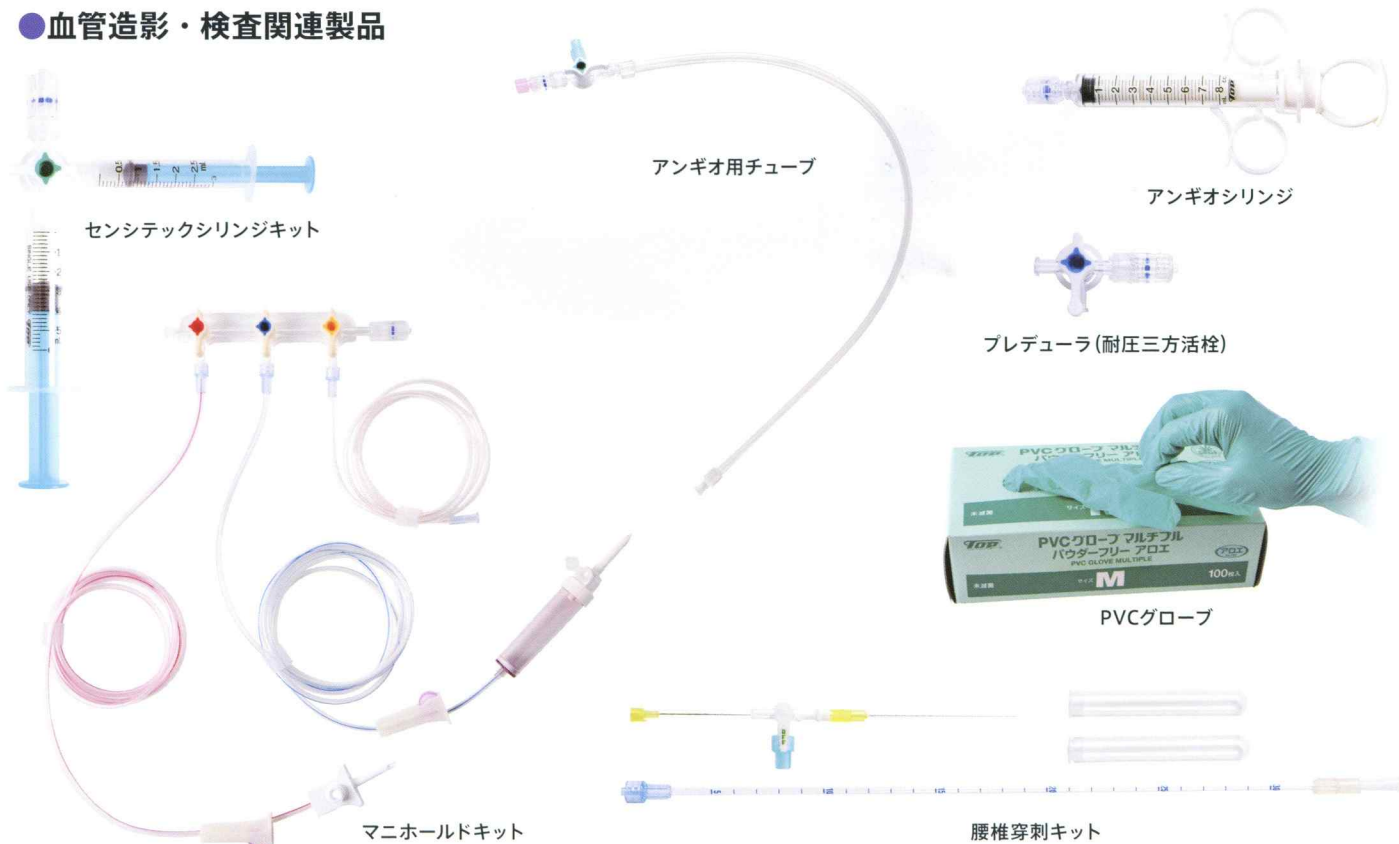
●注射関連製品



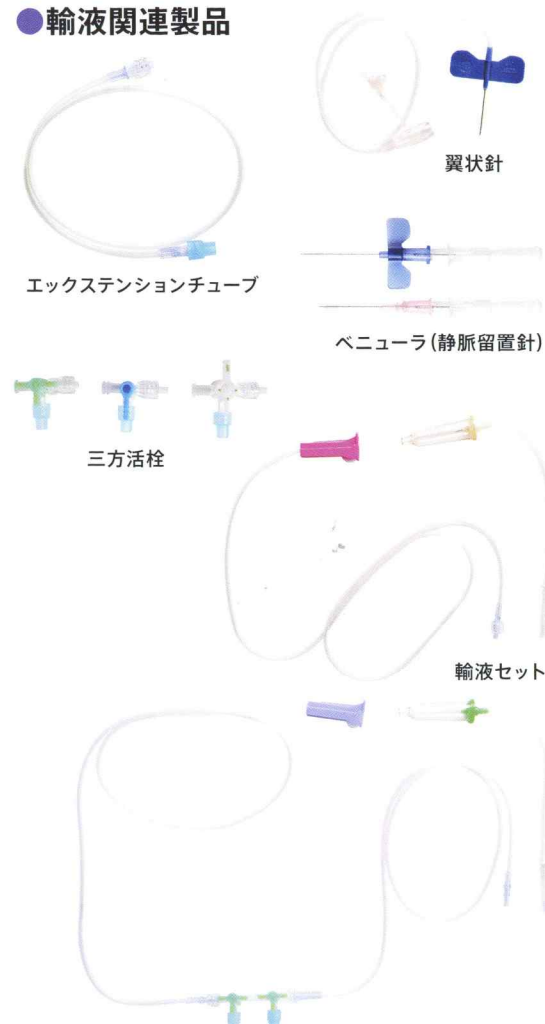
●呼吸・麻酔関連製品



●血管造影・検査関連製品



●輸液関連製品



誤作動しない、誤作動を起こさせない機器



製薬・化粧品企業向け製品
医療機器で培った技術の応用

●プレフィルシリンジ



●化粧品用ポンプ(エアレスポンプ)



キット製品
手技で求められる製品を、ワンパックに

●キット部材各種



動物専用製品
やさしい獣医療と、扱いやすさを追求



100年企業を目指して—— 希望を創り、 未来を生み出すために

患者様の“Quality Of Life”を重視した「人にやさしい医療」は、
医療業界の世界的な潮流となっています。
私たちはそれだけにとどまらず、医療従事者にもやさしく、
そして患者様にとってもやさしい医療機器が必要であると考えます。

私たちは、創業以来「よりよい商品を創造し、人々の健康と福祉に貢献する」
という企業理念を掲げて、かけがえのない生命のために
製品を提供することを使命としてきました。

時代とともに歩み、常に一步先を行く努力を重ね
そのバトンを受け継いで新たな工夫を加え、さらなる品質を追求していく。
こうした私たちの歩みと呼応するように、
医療というフィールドで“質”への需要は高まり続けています。
このような流れのなかで、研鑽を怠らず、品質をより一層追求していくかぎり、
私たちの活動の場は広がり続け、
いま以上に、医療現場をサポートできる存在になっていけると確信しています。

私たちは100年企業を目指し、人々への想いを込めながら、確かな足取りで歩んでいきます。
希望を創り、未来を生み出すために。





— Since 1940 —

株式会社 トップ

本社 / 〒120-0035 東京都足立区千住中居町19番10号

TEL.03-3882-3101(代)

<http://www.top-tokyo.co.jp>